

平成30年度 業績優秀者返還免除申請書

(様式1-1表)

記入例

(両面印刷の表)

平成 31 年 2 月 ○ 日

独立行政法人
日本学生支援機構理事長殿

本申請書記載事項に相違ありません。
免除認定を受けた場合、認定後において日本学生支援機構が免除認定者の職業や業績等について調査を行うときにはその調査に協力することに同意のうえ、特に優れた業績による返還免除を申請します。

フリガナ
氏 名 ○ ○ ○ ○ 印 **押印**

修士学生はここに✓ **東京藝術大学 大学院** 博士学生はここに✓

| 大 学 院 名 | 東京藝術大学 大学院 | | |
|-----------|---|----------|----------------------------------|
| 課 程 | 修士（博士前期）課程 | 専門職大学院課程 | 博士（博士後期）課程 |
| 研究科名・専攻名 | ○○研究科○○専攻 | 学 籍 番 号 | ○○○○○○○ |
| 奨 学 生 番 号 | 6 ○ ○ ○ 0 6 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ | 生 年 月 日 | 昭和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日 |
| 現 住 所 | 〒○○○-○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ 電話番号 ○○○ (○○○) ○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○-○-○ | | |

■ 大学院における研究課題等

現在、在籍している課程での研究テーマとその概要を記入

| 題 目 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
|-----|----------------------|
| 概 要 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |

■ 教育研究活動等の業績

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 学位論文その他の研究論文 →選考基準第5条 (1) の業績に該当 | 2 | 大学院設置基準第16条に定める特定の課題についての研究の成果 →選考基準第5条 (2) の業績に該当 | 3 | 大学院設置基準第16条の2に定める試験及び審査の結果 →藝大で該当する業績はありません。 |
| 4 | 著書、データベースその他の著作物(1及び2に掲げるものを除く。) →選考基準第5条 (5) の業績に該当 | 5 | 発明 →選考基準第5条 (7) の業績に該当 | 6 | 授業科目の成績 →選考基準第5条 (3) の業績に該当 |
| 7 | 研究又は教育に係る補助業務の実績 →選考基準第5条 (6) の業績に該当 | 8 | 音楽、演劇、美術その他芸術の発表会における成績 →選考基準第5条 (4) の業績に該当 | 9 | スポーツの競技会における成績 →藝大で該当する業績はありません。 |

記入の際は裏面記載の【記入上の注意】を参照。

- 申請する業績に該当する項目の数字をすべて○で囲んでください。
- 藝大で定めている「選考基準」第5条の業績の内容と、この様式の項目の番号は対応していないので、注意してください。
→ 各項目の下に、藝大の「選考基準」第5条の該当する業績の番号を赤字で記載しているので、参考にしてください。※業績内容は、「申請要領」2～4頁または6～7頁を参照。
- 記入例は、1：博士論文及び研究作品【第5条(1)イ】、7：ティーチングアシスタント【第5条(6)イ】、8：コンペで入賞/個展を開催【第5条(4)イ/ロ】の4つの業績を申請するケースです。

記入例
(両面印刷の裏)

私 ○○ ○○ (氏名) の博士課程での業績を以下のとおり申請します。

1. 博士課程での制作および研究活動の集大成として、博士論文と研究作品を提出。研究作品は、2018年12月の博士展で大学美術館にて展示。また○○○財団の○○賞を受賞し、買上作品となった。
2. 2018年○月に開催された○○○○コンクール (○○主催) にて、優秀賞に入賞。このコンクールは歴史が古く、ここで入賞したことは○○分野で権威あるコンクールで認められたということになる。
3. 2017年○月○日から同○日まで、○○画廊にて個展を開催。この展示が評価され、専門誌の『月刊○○』 (2017年○月号) の記事に批評が掲載された。
4. 2017年○月から2018年○月まで、大学においてティーチングアシスタントを勤め、授業補助等の業務を行った。特に○○○○ (具体的事項) の点で、研究室の運営に貢献した。

●下記【記入上の注意】4.を参照。
 ●別紙の「業績評価書」に記入した各業績の内容について、800字程度でまとめること。字数に問題がなければ、様式1-2と同じ内容を記載しても構わない。
 ●業績一つずつについて、箇条書きにしても可。その場合、「業績評価書」に記載した業績の順序および内容と、この記載は必ず一致させること。

●該当する方に✓を記入
 ●「返還に関する手続」が済んでいない人は、大学から推薦できません。返還手続は期限内に済ませること。

【返還誓約書の提出について】
 該当するいずれかの□に✓すること。(提出予定の場合は提出予定年月も記載)

提出済み 提出予定 (平成 年 月 大学へ提出予定)

【口座振替 (リレー口座) 加入申込の手続きについて】
 該当するいずれかの□に✓すること。(手続き予定の場合は予定年月も記載)

手続き済み 手続き中 手続き予定 (平成 年 月)

提出または手続きが確認できない場合、申請を受け付けません。

- 【記入上の注意】**
1. 「課程」欄は、該当するいずれかの□に✓すること。
 2. 「現住所」は大学へ届け出ている住所を記入すること。貸与終了後に連絡先が変更となる場合、返還のてびき (17頁) を参照のうえ、必ず5月末までに機構に届け出ること。
 3. 「教育研究活動等の業績」欄は、該当する数字を○で囲むこと。ただし、専攻分野に関連した業績に限る。
 4. 「教育研究活動等の業績」欄に○を付した項目について、裏面にそれらの要旨を800字程度で記載すること。なお、論文、著書及び受賞については、それぞれ作成又は受賞の年月を記入すること。また、発表、学会誌等は、その名称、巻、号等を記載すること。
 5. 大学院における成績証明書及び特に優れた業績であることを証明する資料を必ず添付すること。(成績証明書は「教育研究活動等の業績」欄で「授業科目の成績」を選択していない場合でも提出が必要。)
- (注) これは様式1-1 (裏面) です。印刷は、様式1-1表裏の両面刷りとする。